

学校番号	学 校 名	校 長 名
31	川崎市立野川中学校	小松 隆之

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
自己の将来を思考しながら 明るく 健康で 常に心の豊かさを育てつつ 知識を身につけ 勤労を尊び 自主的 創造的に 活動する 生徒の育成を目指す	① 授業改善とわかる・できる授業の実践・GIGAスクール構想の推進 支援教育の推進 ② 個々の生徒への丁寧なかかわりときめ細かな生徒指導の推進 生徒理解・教育相談活動の充実とよりよい人間関係づくりの推進 不登校生徒への組織的な取組の推進 ③ 健康・安全・防災教育の推進ならびに教育環境の整備 ④ 家庭・地域・関係諸機関との連携・コミュニティスクールの実施

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 教育課程 学習指導 特別活動 支援教育	・評価規準を意識し、授業力向上を目指した授業の実践 ・GIGAスクール構想をより進めるための取組 ・生徒たちの考えを生かし、自らが意欲的に行動する態度を尊重した生徒会活動ならびに学校行事の実践 ・学級活動の充実 ・生徒の状況に応じた支援策の実践や学習支援室の経営 ・GIGA端末を利用したオンライン学習の実施 ・市教委の指導を参考にした、特別支援教育の充実	・授業について分かりやすく生徒の意欲が出るような活動を意識して取り組んできましたが、昨年度と同様に生徒個々の差異に対する対応が今年度も課題として残りました。 ・時間割に教科の打ち合わせの時間を入れたので、教科内の情報交換ができるようになりました。 ・リーダー研修会を開催し、リーダー育成に努めました。 ・各行事では、実行委員会を組織し、生徒中心の行事づくりを推進しました。 ・学級活動について、学年で様々な場面に対応する学級活動を考え、計画的に実践することができた。 ・教室に入ることが難しい生徒には、学習支援室（ニコニコルーム）を利用しながら登校を促すようにいたしました。また、支援室から通常の教室に戻った生徒もあり、取り組みの重要性を改めて感じました。 ・規定を職員間で回りオンライン授業を実施し、学習の保障を行うことができました。 今年度は特別支援教育の授業の充実を実践し、来年度もその取り組みを継続していきたい。教室の配置にも工夫をほどこしました。	・次年度は校内での研究授業や外部の方を講師に招いて、授業力向上の研修会を可能な限り実施していきたい。 ・適切な場面でGIGA端末を利用し、分かりやすい授業構成を意識し、個々の到達度に応じた学習を意識して取り組み、特に同教科内で情報交換を密にし、研鑽を高めながら実践できるように取り組んでいきたい。 ・リーダーを中心とした生徒会活動や実行委員会による学校行事づくりを引き続き強く意識して実践していきたい。 ・引き続き、学習支援室を運用していきたいと考えるが、スペースの確保や指導者の確保が今後の課題になってくることが予想されるので教育委員会の支援を要望していきたい。 ・オンラインを利用した学習の保障を実践していきたい。 ・特別支援教育の充実のために教員の研鑽と市教委等の指導を推進していきたい。
2 生徒指導 人権尊重・教育相談 不登校対応	・生徒個々の実情を鑑みた生徒指導の実践 ・穏やかに論ず姿勢を堅持した指導の実践 ・人権尊重の考えを徹底するためのプログラムの実施 ・生徒理解を推進するための教育相談の実践	・生徒の事情を酌んだ穏やかな対応を実践することができました。ただ、活動場面によっては、配慮に欠ける発言も見られたので、今後の課題と考えています。 ・複数の教員で情報交換しながら連携を意識した対応をすることができました。 ・粘りづよく取り組んでいるがさまざまな事情により指導の効果が現れない生徒も少なからずいました。 ・オープンスクールの際に各学年で人権に関する授業を実践し、学年内は、統一した内容とし、各クラスで担任が授業し、その授業を保護者に参観していただき、人権教育の実践を広く伝えることができました。引き続きこの実践を継続していくことが大切と改めて感じました。 ・定期的な教育相談期間を設定し、生徒の心のケアを実践することができました。	・教員間で情報を密にし、検討しながらその生徒に合った指導を模索していく必要がある。 ・各場面で適切な発言ができるように細かく情報を認識して指導していきたい。 ・生徒指導研修会で個々の生徒の対応を全教職員で認識していきたい。 ・来年度も人権に関する授業を全校で取り組むことを実践していきたい。 ・来年度も定期的な教育相談期間を設定し、特に長期の休み明けの生徒の心に寄り添えるように計画していきたい。

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
3	健康・安全教育 教育環境整備	・常に感染予防を意識した環境整備の実践 ・交通安全教育の実践 ・学校設備の確認と修繕依頼の推進 ・医療的ケアの推進	・学校での日常生活で感染症を意識して生活するように声掛けや指導することが実践できました。 ・朝会や休み前の全校集会を通して、交通安全を伝えることができましたが、相手側のミスで校外で事故に遭う生徒もいたため、交通安全に関する指導はあらゆる方向から継続するべきと考えました。 ・昨年度問題になっていたエアコンの不調は、改修後にどの教室も問題なくます。医療的ケアで持病を持つ生徒のケアを実践することができました。職員研修も実施することができました。今後も生徒の健康維持のために取り組むことを必要であると感じています。	・引き続き、養護教諭を中心に感染症予防の環境整備や教育を徹底していきたい。 ・生徒の健康維持のために医療的ケアが実践されるように関係機関に要望していきたい。 ・所轄にも協力いただきながら、交通安全の指導やSNSに関する指導を実施していきたい。 ・引き続き、必要な修繕について教職員から情報を寄せていただいて、生徒の安全・安心の確保、学校環境の快適化のために素早い対応を心がけていきたい。
4	保護者・地域社会・ 関係機関等との連携	・保護者との綿密な連携の推進 ・地域のさまざまな機関との連携	・PTA活動を通して、保護者の意向や思いを感じることができました。 ・コミュニティスクール、地域教育会議などを通して、地域との情報交換ができました。また、地域の防災訓練の開催を通して、地域の防災事情への理解を更に深めることができました。 ・児相、地域支援課、警察、民生児童委員などの方々と連携をすることができました。	・引き続き、PTAとの意見交換や諸会議を通して意見を集約し、可能なものは実現していきたい。 ・コミュニティスクールを通して、様々な意見に耳を傾けていきたい。 ・子ども安全、安心のために引き続き、諸機関と連携をしていきたい。 ・本校ならではの地域との連携もあるので、今後とも関係性を重視していきたい。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
コミュニティスクールの中で保護者の学校評価アンケートの結果を提示し、また、生徒の学校評価アンケートの結果を口頭で説明し、ご意見をいただいた。町会長からは数字では表せない部分も大切にいただいて、地域との関りを増やすように取り組んでほしいという意見をいただいた。保護者からは、生徒と先生が仲が良い感じが出ているのでそれを継続し、生徒間の仲間同士の関わりも意識してほしいという意見をいただいた。また、保護司の方から最近では野川中の卒業生などに対応する件もなくなっており、地域としては状況が良くなっていると認識しているというお話をいただいた。	まずは、学力の向上を主眼において取り組んできました。そのためには、教員の授業力向上が不可欠ですので、校内での打ち合わせ、外部の指導者の招請を積極的に行い、適宜、授業改善ができるように実践してきましたがまだ、道半ばでもありますので、今後ともこれを第一に進めていきたいと考えています。野川中学校の生徒が大切にしている「三大行事」についてですが、今年度も、教員の指導と生徒たちの意欲によって、生徒が主体となる学校行事が作り上げられました。生徒を中心に学校行事を作り上げていくことは、来年度も実践していきたいと考えています。また、部活動も同様に熱心に活動し、素晴らしい結果を残しています。今後も活動が充実できるようガイドラインを守りながら取り組んでいきたいと考えています。また、家庭環境が不安定な生徒が少なくないので、家庭との情報交換、関係諸機関との連携を引き続き模索していきたいと考えています。コミュニティスクールを含め、地域の声に耳を傾けることに取り組んでいきたい。